

2012年8月25日 財団セミナー【Q&A】	
質問 1	<p>① 新地区補助金の12-13年度予算 約1,500万円は、1クラブ20万円、20万円×75クラブに配分するという意味ですか？</p> <p>② グローバル補助金は、地区で240-800万円のプロジェクトを実施するのですか？各クラブの参加案はありますか？</p>
回答 1	<p>① 新地区補助金申請要項に記載しておりますように、20-60万円の補助金を供与致します。不備の無い申請書類を受け付け順に審査して参り、枯渇次第閉め切ります。ですから、全クラブに補助金を利用頂けるわけではありません。</p> <p>② 当地区は補助金活動について、クラブの提唱プロジェクトを優先致します。ただ、グローバル補助金は、金額、実施期間、条件（継続性と測定可能）と言った観点から、クラブ単独では少々承認のハードルが高いと思われます。よって、実施地提唱地区やクラブからふさわしいプロジェクトの支援要請があれば、地区と致しましても積極的に関わって参りたいと考えておりますが、あくまでもクラブの皆様に参加頂けるようなプロジェクトに致します。（地区国際奉仕委員会のニュースレターなどで、プロジェクト参加への御案内を差し上げます。）</p>
質問 2	<p>高島ガバナーより新地区補助金申請額は、前年度のクラブの一人当たりの平均年次基金寄付実績に基づいての算定と説明がありましたが、クラブとしては年次寄付相当額を財団に渡さずクラブの奉仕活動に全額使用も可能ですか？</p>
回答 2	<p>新地区補助金の申請に対し、クラブの一人当たりの平均年次基金寄付実績に基づいての算定を原則とすることは、合理的と考えられます。地区が獲得出来る新地区補助金の金額は年次寄付額に基づいて算定されます。従って補助金授与額は寄付額の多少によってクラブ間に差が出るのは致し方なく、またその考え方は「平等な配分」の意図に一致するものです。「最も多く奉仕する者は最も多く報われる」一例とも言えます。</p> <p>クラブが年次基金への寄付を止めて、寄付相当額をクラブ独自の奉仕活動に利用することは確かに「可能」であります。日本国内にもそのようなクラブは存在します。しかし、それは財団のプログラムに参加しないことを意味します。私たちロータリアンは1917年にロータリー財団創設後、RIとロータリー財団を車の両輪として活動を続けて参りました。そしてこれまで私たちはロータリー財団のプログラムによって、多くの恩恵を受けて発展して来ました。その財団のプログラムから離れてしまうことはロータリアンのポリシーとしては、適切とは言えないのではないのでしょうか。</p> <p>また、財団のプログラムを離れるという意味は、地区が裁量権をもつ新地区補助金ばかりか、グローバル補助金及びDDFも申請できなくなります。グローバル補助金は、昨今会員が減少激しい状況において、クラブの拠出額が例え僅かであっても、地区および財団が皆様の寄付をプールしている（DDFおよびWorld Fund）から補助金が授与されるものであり、クラブは受益者の為に多額のプロジェクト予算を準備することができます。</p>

質問 3	<p>① グローバル補助金の「継続性」の条件は？ 継続性とは何年位ですか？ 継続の為には毎年予算が必要ですが、そのたびに申請するのでしょうか？</p> <p>② 援助国側の「測定」は困難だと思うが、怠った場合どうすればよいですか？ 虚偽の報告はどのように判断するのですか？</p>	
回答 3	<p>① 「継続性」とは、ロータリアンによる補助金活動が終了した後も、プロジェクト成果が継続すると意味であり、「何年」という条件ではありません。ですから、ここでは出来るだけ長期にわたりとしか申し上げられないのです。例えば、実施国で井戸を掘り、5年後に故障して朽ちてしまうというような事象を防ぐということです。井戸を掘る際に、近隣住民を集め、ポンプのメンテナンスの方法や時期、簡単な修理技術を教える、さらに井戸の水代をわずかながらも地域住民から徴収し、その基金を部品やメンテナンスに充当するといった工夫です。よって、毎年補助金を申請し、ロータリアンの補助金活動が繰り返されるという活動はここでいう「継続性」にはあたりません。「継続性」のカギは、受益社会への研修や啓発が欠かせないといわれていますし、できることなら Deng 熱事例でご説明致しましたように、近隣地域の役所などを巻き込む事も大切だと思います。</p> <p>② 中間/最終報告書で「測定結果」を報告する必要がありますから、成果の検証を怠ることはできません。測定されていない場合は、補助金活動は終結できません。この場合、実施国だけではなく、支援側パートナーも等しく責任を問われることとなります。このような事態、あるいは虚偽の報告につきましても、絶対おきないようにホスト側との綿密なコミュニケーションをはかりながら、親睦と信頼を築く必要があると思います。</p>	2
質問 4	途上国の学生を日本の大学院に留学させる（2-4年）場合、新地区補助金を利用する為にどのような手続きが必要ですか？	
回答 4	<p>学生の出身国で選考し、日本への留学を支援するという意味でございましょうか？また、補助金は航空運賃や授業料に支給されるのでしょうか。この場合は、新地区補助金の申請を頂けます。ただし、補助金の申請が可能な就学期間は1年以内です。新地区補助金は、財団セミナーにて添付致しました「新地区補助金申請要項」に則って申請下さい。既に日本で勉学あるいは生活している留学生への奨学金の場合は、補助金の対象になり得るかどうかは、さらに詳細をお知らせ頂く必要がございます。</p>	
質問 5	<p>① 地元留学生に奨学金（生活支援）を支給するのに、新地区補助金は利用可能ですか？</p> <p>② 対象奨学生は毎年選考し変わりますが、事業は継続します。毎年新地区補助金申は可能ですか？</p>	

回答 5	<p>① 財団の授与と受諾条件では、既に始まったプロジェクトは補助金の対象とならないとされています。対象留学生が既に大学で勉学しており、中途から授業料を支給するというのは「既に進行中」とみなされる可能性があります。また生活支援金という名目につきましても、既に来日しており生活をしていれば同様です。報告書として全ての領収書（75 ドル以上）も必要であり、どの程度までの生活費を支給するののかも問われます。支給するにも、毎月なのか、1年分まとめてなのか、詳細な条件を事前にお知らせ下さい。財団によりますと、パイロット地区でも見本となる案件が不足しており、即答は難しいようです。</p> <p>② 受益者が変われば、原則的に新しいプロジェクトとして申請は可能です。当地区の新地区補助金は、全予算の15%を奨学金活動分として予算配分しております。（将来、予算配分がどのように変更されるか未定ですが）、もし他の複数クラブが奨学金を申請されてこられれば、またそれがそのクラブとして初めての取り組みであり、かつ内容の良いものであれば、そちらを優先する可能性もあります。地区と致しましては、多くのクラブに補助金を御活用頂きたいと考えております。</p>
質問 6	<p>① グローバル補助金の地区 DDF の審査受付開始はいつですか？</p> <p>② 審査内容の発表はいつ頃ですか？</p> <p>③ TRF の審査書を DDF の審査に添付する必要がありますか？</p>
回答 6	<p>① 参加資格認定後、つまり補助金管理セミナー（2013年2月23日）を受講頂くと共に、MOU に署名の上、補助金小委員会まで御提出頂ければ即時 DDF を申請頂けます。</p> <p>② 審査内容は、我々地区も現在のところグローバル補助金の申請書にアクセスできませんので（2012年1月から申請ページが開始されます）、審査詳細はわかりませんが、おそらく現行（パイロット地区が申請書の前に TRF に提出している）の提案書に基づいた当地区の申請書で審査させて頂く事になると思います。つまり、(1)プロジェクト名、(2)ホスト & インターナショナル・スポンサー情報、(3)地域のニーズ、(4)活動内容、(5)重点分野、(6)プロジェクトの成果（継続性と測定可能性）、(7)予算、(8)資金調達、を記載頂く事になります。</p> <p>③ TRF の申請はオンラインですから、DDF 申請書に添付は不可能だと考えています。</p>

2012年10月27日 財団 FVP セミナー【Q&A】	
質問 1	<p>支援地域にロータリークラブがないと財団の補助金は使えませんか？ JICA は実施地にありますが、補助金は使えますか？</p>
回答 1	<p>新地区補助金は、実施国におけるロータリーの有無は問いません。 グローバル補助金は、プロジェクトや活動を実施国のロータリークラブ/地区（ホスト・パートナー）と国際パートナー・クラブ/地区が提唱しなければなりませんので、ロータリーの存在は必須です。 J I C A は協力団体として参加は可能ですが、ホスト・パートナーにはなれません。</p>
質問 2	<p>「成果が測定可能」について、プロジェクトや活動の結果が目標に到達しない、あるいは逆に悪化した場合、補助金を返金しなければなりませんか？</p>

回答 2	<p>予測できない事態が起こる事はあると思いますが、プロジェクト中は常にモニターされ、調整が加えられるべきですから、ある程度避ける事が可能だと思われます。また、そのプロジェクトや活動が実施されなかった場合は、さらに悪い事態になっていたとも考えられるかも知れません。規定に従い、適切な活動を実施していれば補助金の返金の必要はありませんので、ご安心下さい。財団はモニタリングのツールキットをご参照下さい。</p> <p>http://www.rotary.org/RIDdocuments/ja_pdf/fv_global_grants_monitoring_evaluation_toolkit_ja.pdf</p>
質問 3	<p>(新)地区補助金について、前年度平均年次基金寄付実績は、どのようにすれば一人当たりの実績を知らせてもらえますか？</p>
回答 3	<p>財団本部が前年度の寄付実績の最終集計を発表しますが、例年 8 月末～9 月頃です。当地区では、クラブ財団委員長会議などで全クラブに配布しておりますが、9 月以降、ガバナ―事務所にお問い合わせ頂いても結構です。</p>
質問 4	<p>F V P について、クラブではなくて 2660 地区が他国の地区から何等かのアプローチを受けていますか？</p>
回答 4	<p>海外からプロジェクトや活動の提案が来ているか、つまり当地区に国際パートナーとなって欲しいという要望が来ているかという意味でございましたら、現在はございません。</p>
質問 5	<p>① 「授与と受諾の条件」制約事項 1. 「特定の受益者、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援」について事例をあげて欲しい。(例えば、同一のプロジェクトを地域を変えて実施するのは大丈夫でしょうか?)</p> <p>② 職業研修で新補助金を申請の場合、海外派遣しか対象となりませんか? 職業奉仕で国内での利用は難しいですか?</p> <p>③ 新地区補助金には、グローバル補助金にある「測定可能」要件は無いと考えてよいですか?</p>
回答 5	<p>① 新地区補助金の場合、「特定の受益者」に「長期にわたる」支援はふさわしくないということです。同一プロジェクトであっても、地域が変わる＝受益者が変わる、であれば原則可能です。</p> <p>② 新地区補助金は、国内における職業研修事業に利用頂けます。グローバル補助金も、国内事業を不可としているわけではなく、ロータリーが存在する国や地域であれば利用できます(但し、実施国のホスト・パートナーと援助国のインターナショナル・パートナーがプロジェクトや活動を提唱しなければいけません)。</p> <p>③ 測定可能である必要はありません。ですが、プロジェクトの成果が持続する(受益者の自立を助長する)ものがふさわしいと思います。</p>

質問 6	<p>グローバル補助金 (GG) 申請にあたり、国際パートナーとして地区財団活動資金 (DDF) 申請時、以下提出は必要ですか？</p> <p>(1)成果の測定・継続性について調査資料、(2)クラブ覚書(MOU)の認定、(3)申請書のコピー</p>
回答 6	<p>現時点では、当地区の DDF 申請書以外は全て不要だと思われま</p> <p>但し、(1)の資料は不要ですが、DDF 申請書に記入欄がございますので、簡潔に説明頂きます。</p> <p>(2)GG 申請には、資格認定が必須です(MOU の署名と提出・補助金管理セミナー参加)。地区で記録・管理致しますので、クラブに DDF 申請時に添付頂く必要はありません。</p> <p>(3)GG 申請は財団とのオンラインですから、事前 (DDF 申請時) 提出は無理だと推測しています。(財団からも、パイロット地区において、申請後さえコピーがとれないシステムエラーも発生しているという説明を受けています。今後、改善されるはずですが。)</p> <p>2013 年 1 月になりませんと、地区も財団の GG 申請ページにアクセスできませんので、現時点ではパイロット地区の実績と財団室の説明をもとに申請手順を策定致しました。今後、既述の申請手続きに関しまして、変更や改訂の必要が出て参りましたら、御連絡申し上げます。</p>
質問 7	<p>ラオスにおける小学校校舎の改築事業について (新地区補助金)</p> <p>① 制約事項 3.4. (授与と受諾の条件) に抵触しますか？</p> <p>② タイ姉妹クラブが参加する場合 (両国際パートナー・クラブが各 30 万円拠出予定)、地区補助金はいくら受給できますか？ 30%とはどういう場合ですか？</p> <p>③ 銀行口座を連名で開設することは可能か？実行可能なルールか？</p>
回答 7	<p>① 既存の学校施設の改築・増築は、財団補助金の利用が可能です。新築の場合、建築資材を提供するだけであっても、補助金を使用することはできません。ソーラーパネルや、エアコン、ペンキ缶等の寄贈はできます。</p> <p>② 申請可能な地区補助金は、貴クラブの拠出額と同額です。(貴クラブの前年度一人当たりの寄付金額が 150 ドル以上の場合)。30%はグローバル補助金を申請される場合の、援助国側ロータリークラブ/地区の拠出最低額です (補助金を含まない拠出総額の 30%)。地区補助金には、関係ありません。</p> <p>③ 日本では連名による口座開設はできないようです。「授与と受諾の条件」「覚書」共に、世界の地区/ロータリークラブの標準的ルールですから、それぞれの国や地域の法律・ルールが優先致します。補助金の入出金を複数の会員が管理するというのがクラブでルール化される事が重要です。例えば、正副の銀行印をお届け頂き、両印を別々の会員が管理する、または口座署名人ともう一名の会員の確認が無ければ出金できないようにルールを設定するなどが考えられます。</p>
質問 8	<p>教育的プログラムについての資料が欲しいのですが？</p>
回答 8	<p>新制度になると、教育的プログラムという位置づけではなくなってしまい、いい資料があまりないのですが、以下ご参考下さい。</p> <p>http://www.rotary.org/RIdocuments/ja_pdf/fv_scholarships_comparison_ja.pdf</p>

質問 11	グローバル補助金の内訳の考え方が不明です。DDF+WF+クラブ拠出金で、クラブがいくら出せば 30,000 ドルになるのですか？																																																												
回答 11	<p>プロジェクト総予算を 3 万ドル以上にする事より、WFに受給が最低 15,000 ドル以上である必要性にご注目頂きたいのです。この場合の計算式例を以下 3 つお示し致しますので、ご参考になれば幸いです。何よりも重要な点は、先にプロジェクト（現地のニーズ）です。プロジェクトに一体いくら必要とされるのかを優先に、次にWFが 15,000 ドル以上になるように予算調達をお考え下さい。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>例 1</th> <th>現金</th> <th>DDF</th> <th>WF</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラブ</td> <td>1,000</td> <td></td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>2660 地区</td> <td></td> <td>14,500</td> <td>14,500</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>1,000</td> <td>14,500</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト資金</td> <td colspan="3">30,500</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>例 2</th> <th>現金</th> <th>DDF</th> <th>WF</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラブ</td> <td>2,000</td> <td></td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>2660 地区</td> <td></td> <td>14,000</td> <td>14,000</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>2,000</td> <td>14,000</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト資金</td> <td colspan="3">31,000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>例 3</th> <th>現金</th> <th>DDF</th> <th>WF</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラブ</td> <td>3,000</td> <td></td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>2660 地区</td> <td></td> <td>13,500</td> <td>13,500</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>3,000</td> <td>13,500</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト資金</td> <td colspan="3">31,500</td> </tr> </tbody> </table>	例 1	現金	DDF	WF	クラブ	1,000		500	2660 地区		14,500	14,500	小計	1,000	14,500	15,000	プロジェクト資金	30,500			例 2	現金	DDF	WF	クラブ	2,000		1,000	2660 地区		14,000	14,000	小計	2,000	14,000	15,000	プロジェクト資金	31,000			例 3	現金	DDF	WF	クラブ	3,000		1,500	2660 地区		13,500	13,500	小計	3,000	13,500	15,000	プロジェクト資金	31,500		
例 1	現金	DDF	WF																																																										
クラブ	1,000		500																																																										
2660 地区		14,500	14,500																																																										
小計	1,000	14,500	15,000																																																										
プロジェクト資金	30,500																																																												
例 2	現金	DDF	WF																																																										
クラブ	2,000		1,000																																																										
2660 地区		14,000	14,000																																																										
小計	2,000	14,000	15,000																																																										
プロジェクト資金	31,000																																																												
例 3	現金	DDF	WF																																																										
クラブ	3,000		1,500																																																										
2660 地区		13,500	13,500																																																										
小計	3,000	13,500	15,000																																																										
プロジェクト資金	31,500																																																												